社会福祉援助技術		担当教員	青井（あおい） 夕貴（ゆうき）・西村（にしむら） 重稀（しげき）
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
演習	2単位	2年次通年	選択

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

家庭や地域の養育機能の低下により、保育所は地域の子育て支援センターとしての役割が担わされた。保育士の役割も名称独占としての国家資格になるとともに児童の保育だけでなく保護者や地域住民の保育相談の業務が課せられ、社会福祉援助技術の習得・実践が不可欠となっている。そのため、講義により社会福祉援助技術を学び、ケース事例により個別援助技術、集団援助技術、地域援助技術、ケアマネジメントの実際を演習し理解することを目的とする。

[2] 授業の計画

第 1回　子どもと家族（1）
第 2回　子どもと家族（2）
第 3回　保育所と子育て支援
第 4回　社会福祉援助技術の沿革と種類
第 5回　社会福祉援助技術と倫理
第 6回　社会福祉援助技術と保育士の役割
第 7回～第 8回　個別援助技術の定義と構成要素
第 9回～第10回　個別援助技術の原則
第11回～第12回　個別援助技術の進め方
第13回　個別援助技術の記録と評価
第14回　よりよい相談を受けるための環境・技術
第15回～第17回　児童相談所・障害者更正相談所・婦人相談所等の業務説明と見学
第18回～第19回　集団援助技術の定義と構成要素
第20回～第21回　集団援助技術の進め方
第22回～第23回　地域援助技術の定義・原則
第24回～第25回　地域援助技術の進め方
第26回～第30回　事例研究

[3] 評価の方法

試験期間中の試験は実施しない。レポート（全3回）や提出課題60%、授業への取り組み態度等40%をもとに総合評価をする。なお、欠席や遅刻、早退は減点の対象とする。

[4] 教　　材

小林育子・小舘静枝編『保育者のための社会福祉援助技術』（萌文書林）
日本保育協会編『子育て相談の手引』（日本保育協会出版）

[5] 参考図書

必要に応じて紹介する。

[6] その他

体験を通した理論や技術の習得を重視するため、積極的な授業への参加を求める.

精神保健		担当教員	乙部貴幸（おとべ たかゆき）
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
講義	2単位	2年次前期	選択

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

乳幼児を保育する保育士にとって、乳幼児期に見られる心の病気や問題を理解することは重要である。また、成人の心の健康と乳幼児期の発達などがお互いに影響し合うこともあり、自身の健康を考えることも含めて、乳幼児だけではなく成人の心の病気や問題についても理解しておくことが好ましい。本授業では、代表的な心の病気や問題について、その症状・原因・対応について理解するとともに、その予防法について考えてもらう。

[2] 授業の計画

第 1回　精神保健とは
第 2回　心の身体的基礎
第 3回　心の病気①　種類と分類
第 4回　心の病気②　代表的な内因性の病気（統合失調症、気分障害など）
第 5回　心の病気③　代表的な外因性の病気（依存症など）
第 6回　心の病気④　代表的な心因性の病気（神経症）
第 7回　心の病気⑤　代表的な心因性の病気（心身症、行動障害）
第 8回　心の病気⑥　乳幼児期に問題となる心の病気(1)（神経性習癖）
第 9回　心の病気⑦　乳幼児期に問題となる心の病気(2)（知的障害）
第10回　心の病気⑧　乳幼児期に問題となる心の病気(3)（広汎性発達障害）
第11回　心の病気⑨　幼児ー学童期に問題となる心の病気(1)（注意欠陥多動性障害）
第12回　心の病気⑩　幼児ー学童期に問題となる心の病気(2)（学習障害）
第13回　児童虐待の病理
第14回　母子関係の精神保健
第15回　精神保健の歴史と制度

[3] 評価の方法

試験期間中に試験を実施する。試験(80%)、授業時に課す課題(20%)により総合的に評価する。(　)内は、評価にしめる比重を表す。欠席・遅刻・早退、および著しく受講態度が悪い場合は減点する。

[4] 教　　材

必要に応じて資料を配布する。

[5] 参考図書

本城秀次 編『よくわかる子どもの精神保健』(ミネルヴァ書房 2009)
山下　格 著『精神医学ハンドブック 第6版』(日本評論社 2007)
清水將之 著『子どもの精神医学ハンドブック』(日本評論社 2008)

家族援助論		担当教員	青井夕貴（あおいゆうき）
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
講義	2単位	2年次前期	選択

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

子どもの発達にとって基礎的な環境（集団）のひとつが家庭である。その家庭の機能やあり方は、核家族化や少子高齢化などのような社会のさまざまな影響を受け、大きく変化している。同時に、地域や家庭での子育てを支援する形態も多様に展開されている。本授業では、家庭やそれを構成する家族のもつ機能や役割について理解を深め、援助の方法や過程を学ぶとともに、家族援助の重要性とそのあり方について考察する。

[2] 授業の計画

第 1回　オリエンテーション～家族とは
第 2回　家族援助とは
第 3回　家族を取り巻く社会的状況
第 4回　家族関係のあり方～夫婦関係
第 5回　家族関係のあり方～親子関係
第 6回　家族関係のあり方～きょうだい関係
第 7回　子育てからみた家族の課題
第 8回　家族援助の方法と過程Ⅰ
第 9回　家族援助の方法と過程Ⅱ
第10回　保育所・幼稚園における家族援助Ⅰ
第11回　保育所・幼稚園における家族援助Ⅱ
第12回　施設における家族援助
第13回　児童虐待等における家族援助
第14回　家族援助における社会資源の活用
第15回　まとめ

[3] 評価の方法

試験期間中に試験を実施する。
試験50%、提出課題30%、受講態度等20%をもとに、総合評価する。
欠席や遅刻、早退は減点の対象とする。

[4] 教　　材

改訂保育士養成講座編纂委員会編『家族援助論』（全国社会福祉協議会）
『のびのび子育て50のヒント』（福井新聞社）

[5] 参考図書

必要に応じて授業中に紹介する。

音楽Ⅱ		担当教員	武内（たけうち） 紘一（こういち） ・ 坂本（さかもと） 流美（るみ）
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
演習	2 単位	2 年次通年	選択

【武内 担当分】

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

「表現」の領域における音楽的視点から、幼児教育者としての様々な保育の在り方に資するために、1. 伴奏法、2. 編曲法、3. 鑑賞の 3 項目に渡って演習するものである。

[2] 授業の計画

第 1 回～第 3 回　マーチテンポを基本にリズムドリルの体感
Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ7 を用いた行進曲演習による集団制御の演習
リズム模奏によるテンポ、拍子の整理
あらゆる Key で音楽再発見、鍵盤活用の整理

第 4 回～第 7 回　模唱、模奏で情報収集の耳を意識、基本的な楽譜の書き方
既成曲の伴奏形、メロディーから楽譜にたよらない音楽活用演習
和音記号の理解と演習（Ⅰ、Ⅳ、Ⅶ、Ⅲ、Ⅵ、Ⅱ、Ⅴ）
現場を想定した課題の演習と確認

第 8 回～第 10 回　わらべ歌の伴奏付けの実際を既成曲で演習
グループでわらべ歌の創作（詞、曲）と表現
各種楽器の奏法整理と創作リズムの活用

第 11 回～第 13 回　Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ7 を用いた即興アンサンブルの体験
リズム、ベース、コード、メロディー、オブリガートの演習
簡単なアンサンブル楽譜の書き方
リズム、メロディー変奏の体験

第 14 回～第 15 回　各グループでリズム行進、簡易伴奏、わらべ歌、アンサンブルの確認とまとめ
発表会
※ 鑑賞に関してはその都度、必要に応じて取り入れる

[3] 評価の方法

試験期間中の試験は実施しない。
実技が中心となるため、主な単元ごとに評価する。
欠席、遅刻、早退及び授業の妨げになる行為（私語、携帯電話など）は減点する。

[4] 教　　材

(前期)板書の模写に始まる自身のノートと実行が教材の始まりとなる。
必要に応じて参考図書を紹介する。

[5] 参考図書

後期の授業については次頁参照。

【坂本 担当分】

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

「表現」の領域における音楽的視点から、幼児教育者としての様々な保育の在り方に資するための一手段として『わらべうた遊び』を数多く実際に遊ぶ事を通して、幼児の言語的､社会的発達の過程を考察しながら、理論的裏付けを伴った活用を身につける事をねらいとする。

[2] 授業の計画

第 16 回　音楽教育の役目と音楽教育学概略
第 17 回 「わらべうた」による音楽教育
第 18 回 「わらべうた遊び」とは
第 19 回～第 20 回　季節のわらべうた遊び（夏）の教材と教授法
第 21 回～第 22 回　季節のわらべうた遊び（秋）の教材と教授法
第 23 回～第 24 回　季節のわらべうた遊び（冬）の教材と教授法
第 25 回～第 26 回　季節のわらべうた遊び（春）の教材と教授法
第 27 回　わらべうた遊び（通年）
第 28 回～第 29 回　創作わらべうたや設定保育案の作成
第 30 回　まとめ

[3] 評価の方法

試験期間中の試験は実施しない。
毎回の授業内容及び設定保育案をノートにまとめ提出（60%）、授業への取り組み（40%）の割合で評価する。
欠席、遅刻、早退及び授業の妨げになる行為（私語、携帯電話など）は減点する。

[4] 教　　材

クレヨン、はさみ、画用紙など

[5] 参考図書

フォライ・カタリン（知念直美編・畑　玲子訳）
『わらべうた 音楽の理論と実践』(明治図書 1991)
畑･知念･大倉『わらべうたあそび 春・夏』(明治図書 1994)
畑･知念･大倉『わらべうたあそび 秋・冬』(明治図書 1995)
永田 栄一 編『日本のわらべ歌遊び 35』(音楽之友社)

[6] そ の 他

前期の授業については前頁参照。

音楽（器楽Ⅱ）		担当教員	中野研也（なかの けんや）他
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
演習	2 単位	2 年次通年	選択

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

日本の童謡を中心に「弾き歌い」の学習をします。前期は「はじめての曲を短期間でマスターする習慣を付ける」こと、後期は「歌とピアノのバランスを考える」ことを心掛けてください。また数多くの曲の学習が望まれるため、グレード毎に決められた年間履修曲数（下表のとおり）をマスターすることが到達目標です。

[2] 授業の計画

1～3 のグレードより、いずれか 1 つ選択して個人レッスンを受講します。

グレードの内容は以下のとおり。

グレード	年間履修曲数	グレード選択の目安
1 グレード	24 曲以上	1 回生時に 1・2 グレード
2 グレード	26 曲以上	1 回生時に 3・4 グレード
3 グレード	29 曲以上	1 回生時に 5・6 グレード

ここでは、1 グレードの履習例を示します。詳しくは器楽Ⅱレッスンカードを確認のこと。

1 回　概要の説明等	6 回　自由曲	11 回　新曲・課題曲	16 回　自由曲	21 回　自由曲	26 回　復習
2 回　自由曲	7 回　発表	12 回　自由曲	17 回　課題曲	22 回　発表	27 回　自由曲
3 回　課題曲	8 回　自由曲・新曲	13 回　自由曲	18 回　課題曲	23 回　自由曲	28 回　自由曲
4 回　課題曲	9 回　課題曲・新曲	14 回　自由曲	19 回　課題曲	24 回　課題曲	29 回　自由曲
5 回　行事の曲 自由曲	10 回　自由曲・新曲	15 回　発表	20 回　自由曲	25 回　課題曲	30 回　発表

選曲は担当教員のアドバイスを受けて行って下さい。曲の内容は以下のとおり。

課 題 曲：別紙「課題曲一覧」より

自 由 曲：実習時に歌われていた童謡や各園独自のうたなど、教本の枠にとらわれずに選曲します。

行事の曲：園の行事で歌われている曲を選び、友人に歌ってもらって伴奏をします。

ピアノ曲（3 グレードのみ）：幼児に聴いてもらいたいピアノ曲(試験時は 2 分まで)を自由に選びます。

新　　曲：はじめての曲をその場で弾く方法を学びます。(課題は各担当教員が準備します。)

[3] 評価の方法

実技が中心となるため、授業期間中に実技試験（前期 2 回 50 点、後期 2 回 50 点）を実施します。また、授業態度等により減点します。

その他、規定曲数を上回る場合、2 曲につき 1 点プラスします。(5 点を上限とする)

[4] 教　　材

チャイルド本社　小林美実編『こどものうた 200』（1 年次において音楽Ⅰで使用）

上記を指定教材とします。また補助教材として、以下に掲げる楽譜も使用できますので、実技担当教員と相談の上で選定してください。

全日本私立幼稚園連合会編『新版 母とおさなごの歌』(全音楽譜出版)

井上勝義 編著『こどものうた 12 か月』(ひかりのくに)

小林美実編『続 こどものうた 200』(チャイルド本社)

小林美実監修・井戸和秀編『こどものうた 100』(チャイルド本社)

体育Ⅰ		担当教員	平岡芳美（ひらおかよしみ）
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
演習	2単位	2年次通年	必修

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

幼児の自発的な活動としての「遊び」は、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習である。授業のねらいは、1)運動遊びを中心とした体育の基礎技能を習得する。2)幼児が興味を示し、自発的に取り組めるような環境構成のあり方についての知識を習得する。3)教材・教具についての理解を深め、その扱い方に習熟して幼児の活動に即した援助力を育成することである。

前期と後期の前半は、実技指導を通して乳幼児期からの運動遊びの内容と指導方法を学習し、後期の後半は、理論的裏付けとして専門的知識を講義を中心として学習していく。幼児の前で即、運動遊びの指導ができる実践力をめざす。

[2] 授業の計画

第1回　集団遊び、鬼遊び、伝承遊び①
第2回　集団遊び、鬼遊び、伝承遊び②
第3回　集団遊び、鬼遊び、伝承遊び③
第4回　ボール遊び(年少児)
第5回　ボール遊び(年中・年長児)
第6回　なわ遊び(年少児)
第7回　なわ遊び(年中・年長児)
第8回　フープ遊び
第9回　廃品を利用しての遊び
第10回　チャレンジグ・ザ・ゲーム
第11回　いろいろな遊具を利用しての遊び
第12回　固定遊具での遊びの実際
第13回　水あそびのVTR鑑賞
第14回　「遊び」をつくる
第15回　まとめ・実技試験
第16回　実習での運動遊びについての意見交換
第17回　マット遊び
第18回　跳び箱遊び
第19回　鉄棒・平均台遊び
第20回　幼児の運動能力の発達
第21回　運動能力測定
第22回　運動能力測定の統計処理①
第23回　運動能力測定の統計処理②
第24回　運動遊びの指導案作成
第25回　運動遊びの指導の実際①
第26回　運動遊びの指導の実際②
第27回　VTR鑑賞
（幼児の動きのいろいろ）など
第28回　幼児の運動遊びの意義・分類
第29回　行事としての運動会
第30回　まとめ

[3] 評価の方法

試験期間中の試験は実施しない。
実技試験80点（前期実技40点、後期実技40点）、レポート20点
また、欠席、遅刻、早退を減点の対象とする。

[4] 教　　材

平岡芳美編著『幼児の運動あそびと身体表現あそび』(K.K.アイ　2003年)

[5] 参考図書

厚生労働省『保育所保育指針解説書』(フレーベル館 2008)
文部科学省『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館 2008)

国語		担当教員	前田敬子（まえだ けいこ）
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
講義	2単位	2年次前期	必修

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

絵本の文と絵の表現に対する理解を深め、鑑賞力を向上させる。また、様々な言語活動をしたり、優れた文学作品に触れたりすることによって、社会人としての教養を高める。

[2] 授業の計画

第 1回　グループで絵本を作ろう・書き誤りやすい漢字（1）
第 2回　絵本の発表会　第1回・書き誤りやすい漢字（2）
第 3回　絵本の発表会　第2回・書き誤りやすい漢字（3）
第 4回　同一題でも異なる「シンデレラ」グリム童話・敬語（1）
第 5回　同一題でも異なる「シンデレラ」ペロー童話・敬語（2）
第 6回　同一題でも異なる「シンデレラ」ディズニー・実習先への電話のかけ方、誤りやすい表現
第 7回　好きな絵本を紹介しよう　～絵に注目する～・手紙の書き方
第 8回　伝えたいテーマで文を書き、推敲しよう
第 9回　同一題でも異なる「七羽のからす」
第10回　絵と文章のずれ「昔話絵本を考える」
第11回　絵と文章のずれ「昔話絵本を考える」
第12回　好きな絵本を紹介しよう　～文に注目する～
第13回　絵本制作
第14回　絵本制作・絵本の発表会
第15回　まとめ

[3] 評価の方法

試験期間中に試験を行う。
試験は6割、受講中の課題提出で4割。
欠席、遅刻、早退及び授業の妨げになる行為（私語、携帯電話など）は減点する。

[4] 教　　材

松岡享子『昔話絵本を考える』（日本エディタースクール出版部）

[5] 参考図書

脇　明子『読む力は生きる力』（岩波書店）
小澤俊夫『「グリム童話」を読む』（岩波書店）
松岡享子『ことばの贈りもの』（東京子ども図書館）
有馬哲夫『ディズニーの魔法』（新潮新書）

教育社会学		担当教員	増田　翼（ますだ つばさ）
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
講義	2単位	2年次後期	選択

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

本講義では、「教育と社会」との関係について学ぶとともに、私たちが教育について語る際に無意識のうちに抱いている「当たり前」の「常識」を疑うことで、教育に対する見直しを図っていきたい。具体的なテーマとしては、しつけ、早期教育、学歴社会、不登校、いじめ、ジェンダーを取り上げる。

[2] 授業の計画

第 1回　オリエンテーション
第 2回　家庭教育としつけ（1）家族の基本的機能、しつけと社会化
第 3回　家庭教育としつけ（2）「家庭の教育力＝低下」説
第 4回　早期教育（1）早くからの教育
第 5回　早期教育（2）早期教育の何が問題なのか？
第 6回　学歴社会（1）学校の機能と日本型学歴社会
第 7回　学歴社会（2）ハイパー・メリトクラシー社会と幼児期の育ち
第 8回　学歴社会（3）教育格差の拡大
第 9回　不登校（1）「不登校」の定義
第10回　不登校（2）不登校をめぐる議論
第11回　いじめ（1）「いじめ」の定義
第12回　いじめ（2）いじめの構造
第13回　ジェンダー（1）幼児期における「男らしさ・女らしさ」の形成
第14回　ジェンダー（2）日本における母親像の変遷
第15回　まとめ

[3] 評価の方法

試験は行わず、ノート等の提出物（50%）とレポート（50%）で評価する。
欠席、遅刻、早退および授業進行の妨げになる行為は減点とする。

[4] 教　　材

苅谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗著『教育の社会学』（新版、有斐閣 2010）
その他、適宜プリント資料を配布する。

[5] 参考図書

広田照幸『日本人のしつけは衰退したか』（講談社 1999）
無藤隆『早期教育を考える』（日本放送出版協会 1998）
本田由紀『多元化する「能力」と日本社会』（NTT 出版 2005）
伊藤茂樹編、広田照幸監修『リーディングス 日本の教育と社会』第８巻 いじめ・不登校（日本図書センター 2007）
木村涼子編、広田照幸監修『リーディングス 日本の教育と社会』第16巻 ジェンダーと教育（日本図書センター 2009）
森田洋司『いじめとは何か』（中央公論新社 2010）　　その他、講義中に随時紹介する。

[6] その他

私語をする学生に対しては、とりわけ厳しく指導し減点する。また、初回に座席を指定する。

保育原理Ⅰ		担当教員	増田　翼（ますだ つばさ）
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
講義	4単位	2年次通年	必修

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

本講義ではまず、保育の基礎基本として、「保育」という言葉の意味や保育の理念、子どもの権利、保育所の役割と社会的責任について学ぶ。その上で、保育所保育指針に即して、保育内容の基本構造や（保育内容としての）生活と遊び、保育の計画等について学ぶ予定である。講義の前半期を通じて、厚生労働省（2008）『保育所保育指針解説書』の該当部分を読み進め、特に改定の要点について理解を深めてもらう。講義の後半期には、欧米の保育施設の発展と保育思想の展開、欧米の保育の現状、日本における保育の歴史と現状、保育施設の制度と機能、保育者に求められる姿勢・態度等について学ぶ予定である。以上の事項を学ぶことによって、現代日本の保育の現状と課題、さらに今後の展望についての理解を深めるとともに、現場で保育者として働くための基礎的な知識・理解を身につけることを目的とする。

[2] 授業の計画

第 1回　オリエンテーション
第 2回　保育の意義と理念（1）保育の語義と保育所保育の特性
第 3回　保育の意義と理念（2）保育の理念と子どもの権利
第 4回　保育の意義と理念（3）保育所の役割と社会的責任
第 5回　保育の内容と方法（1）保育内容の基本構造
第 6回　保育の内容と方法（2）改定「保育所保育指針」の特徴：創意工夫のための大綱化
第 7回　保育の内容と方法（3）保育内容としての生活：基本的生活習慣
第 8回　保育の内容と方法（4）保育内容としての生活：食育と睡眠の指導
第 9回　保育の内容と方法（5）保育内容としての生活：排泄と着脱の指導
第10回　保育の内容と方法（6）保育内容としての遊び：遊びとは何か
第11回　保育の内容と方法（7）保育内容としての遊び：遊びを通して育つもの
第12回　保育の内容と方法（8）保育内容としての遊び：遊びに対する援助の基本
第13回　保育の計画（1）計画の意義と保育課程の編成
第14回　保育の計画（2）指導計画の作成
第15回　保育の計画（3）異年齢児保育の計画、保育の記録と評価

第 16 回　欧米の保育施設の発展と保育思想の展開（1）オーベルラン、オウエン
第 17 回　欧米の保育施設の発展と保育思想の展開（2）フレーベルと恩物
第 18 回　欧米の保育施設の発展と保育思想の展開（3）モンテッソーリ・メソッド
第 19 回　欧米各国の保育の動向（1）フランス
第 20 回　欧米各国の保育の動向（2）スウェーデン
第 21 回　欧米各国の保育の動向（3）アメリカ
第 22 回　保育の歴史と現状（1）幼稚園の成立：東京女子師範学校附属幼稚園
第 23 回　保育の歴史と現状（2）保育所（託児所）の成立：二葉保育園
第 24 回　保育の歴史と現状（3）大正期の幼稚園と倉橋惣三
第 25 回　保育の歴史と現状（4）戦時中・終戦時の保育
第 26 回　保育の歴史と現状（5）戦後および近年の保育の動向
第 27 回　保育施設の制度と機能（1）保育需要の多様化
第 28 回　保育施設の制度と機能（2）措置制度の廃止と保育施設の選択
第 29 回　保育者に求められる姿勢・態度、保育者の職務と専門性
第 30 回　まとめ

[3] 評価の方法

試験は行わず、ノート等の提出物（50%）とレポート（50%）で評価する。
欠席、遅刻、早退および授業進行の妨げになる行為は減点とする。

[4] 教　　材

待井和江編『保育原理［第 7 版］』（ミネルヴァ書房 2009）
厚生労働省『保育所保育指針解説書』（フレーベル館 2008）
文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館 2008）
その他、適宜プリント資料を配布する。

[5] 参考図書

保育小辞典編集委員会編『保育小辞典』（大月書店 2006）
無藤隆・民秋言『ここが変わった！ NEW 幼稚園教育要領・保育所保育指針 ガイドブック』（フレーベル館 2008）
大場幸夫・増田まゆみ・普光院亜紀『よくわかる保育所保育指針』（ひかりのくに 2008）
木附千晶他『「こどもの権利条約」絵事典』（PHP 2005）
汐見稔幸・榊原洋一・中川信子監修『はじめて出会う育児の百科［０～６歳］』（小学館 2003）
戸田雅美『保育をデザインする―保育における「計画」を考える―』（フレーベル館 2004）
汐見稔幸編『世界に学ぼう！ 子育て支援』（フレーベル館 2003）
全国保育団体連絡会・保育研究所編『保育白書 2010 年版』（ひとなる書房 2010）
その他、講義中に適宜紹介する。

[6] その他

私語をする学生に対しては、とりわけ厳しく指導し減点する。また、初回に座席を指定する。

保育原理Ⅱ		担当教員	増田　翼（ますだ つばさ）
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
講義	2単位	2年次後期	選択

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

保育原理Ⅰの内容をより深めたテキストや視聴覚教材、ゲーム、玩具、遊びなどに触れながら、主体的に自らの保育を見つめ、保育者としての資質能力を自ら高めていく態度と能力を身につけることを目的とする。できる限り、（ネイチャーゲームなどを用いた）自然体験や（エンカウンターなどを活用した）参加体験型学習を取り入れる予定である。

[2] 授業の計画

第 1回　オリエンテーション：アイスブレイク
第 2回　自然体験と保育（1）園外保育、ネイチャーゲーム
第 3回　自然体験と保育（2）森のようちえん
第 4回　保育者と子どものための自己表現トレーニング（1）ことばをひらく
第 5回　保育者と子どものための自己表現トレーニング（2）からだをひらく
第 6回　参加体験型学習（1）エンカウンターⅠ：本音と本音の交流
第 7回　参加体験型学習（2）エンカウンターⅡ：自分を見つめる
第 8回　参加体験型学習（3）チームづくりと合意形成
第 9回　子どもと保育者にとっての遊び（1）おもちゃの魅力とは
第10回　子どもと保育者にとっての遊び（2）遊びと人間
第11回　保育者としての成長（1）保護者と向き合う保育者
第12回　保育者としての成長（2）地域の子育て支援に関わる保育者
第13回　保育者としての成長（3）おとなの学びについて（自己決定型学習）
第14回　保育者としての成長（4）内省的実践家を目指して
第15回　まとめ

[3] 評価の方法

試験は行わない。授業内での発表（50%）と毎授業時の小課題（50%）で評価する。

[4] 教　　材

適宜プリント資料を配布する。

[5] 参考図書

講義中に随時紹介する。

[6] その他

授業で扱う教材や内容、授業中に行う発表については、受講生の意向もできる限り取り入れたい。授業への積極的な参加を期待する。

養護原理Ⅱ		担当教員	乙部貴幸（おとべ たかゆき）
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
講義	2単位	2年次後期	選択

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

養護原理Ⅰで学習した基礎的知識をふまえて、より実践的な観点から養護について考える。本授業は大きく2つの内容に分けられる。前半は、保育実習（施設実習）で各自が体験したことなどをお互いに発表し合うことで、各施設に対する理解を深める。後半は、養護を考える上で重要な幾つかのテーマについて資料をもとにまず講義をし、それをもとに討論・意見発表を行う。この授業を通して、①資料を読み取る力、②養護の基本問題に関する自分なりの考え、③他者に自分の考えを表現する力の3つを形成することを目指す。

[2] 授業の計画

第 1回　オリエンテーション
第 2回　施設実習の体験報告と討論（グループ別討論）
第 3回　〃　（全体討論：養護系施設について）
第 4回　〃　（全体討論：障害系施設について）
第 5回　乳幼児期の養育は母親によるものが良いのか
第 6回　〃
第 7回　子育てにおける体罰の是非
第 8回　〃
第 9回　障害児の統合保育（統合教育）の是非
第10回　〃
第11回　里親養護と施設養護の問題点について
第12回　〃
第13回　施設における性の問題を考える
第14回　〃
第15回　まとめ

[3] 評価の方法

試験期間中の試験は実施しない。施設実習の体験報告（50%）、体験報告以外のいずれかのテーマについての意見発表（50%）を評価する。（　）内の比重により総合的に評価する。欠席・遅刻・早退、および著しく受講態度が悪い場合は減点する。

[4] 教　　材

必要に応じて資料を配布する。

[5] 参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

発達心理学Ⅲ		担当教員	三和（みわ） 優（まさる）
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
演習	2 単位	2 年次後期	選択

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

発達心理学Ⅰで学習した内容をさらに深化し、その範囲の拡大をめざします。思春期・青年期の発達のすじみちや臨床、現代的な問題、子どもから大人への移行期の心の揺れ、成人・老人期に関わる事項について学習します。授業では、心理テストを行って自己分析を試みたり、発表と討論などを通して青年期におけるアイデンティ確立について体験的に学習します。

[2] 授業の計画

第 1 回　青年期へのアプローチ
第 2 回　自己形成のすじみち
第 3 回　認知の発達
第 4 回　家族の中の青年
第 5 回　学校のなかの青年
第 6 回　地域に育まれる青年
第 7 回　就職と労働
第 8 回　青年期と非行
第 9 回　ひきこもる青年とその対応
第 10 回　青年期と性
第 11 回　歴史の中の青年
第 12 回　青年を理解する方法
第 13 回　成人期の理解
第 14 回　老年期の理解
第 15 回　授業のまとめ

[3] 評価の方法

試験期間中に試験は実施せず、レポート等を課す。
配点はレポート 2 回各 25 点、発表 25 点、心理テスト報告 25　点です。
欠席、遅刻・早退および授業の進行の妨げになる行為については減点します。

[4] 教　　材

白井利明･都筑　学･森　陽子『やさしい青年心理学』(有斐閣 2002)

[5] 参考図書

南　博文編『老いることの意味－中年・老年期』講座 生涯発達心理学 5(金子書房 1995)
藤村邦博･大久保純一郎･箱井英寿編『青年期以降の発達心理学』(北大路書房 2000)
子安増生他編『キーワードコレクション　発達心理学　改訂版』(新曜社 2004)
白井利明編『よくわかる青年心理学』(ミネルヴァ書房 2006)
溝上慎一『現代青年期の心理学』(有斐閣 2010)

[6] その他

心理テストは約 10 種、発表は 1 人 1 回行います。

臨床心理学		担当教員	乙部貴幸（おとべ たかゆき）
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
講義	2 単位	2 年次前期	選択

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

幼稚園教諭や保育士などには、子どもの発達と保護者の子育ての両方を支援することが求められている。本授業では、①代表的な心理学の理論と心理療法の基礎知識、②質問紙調査の意義と方法、の２つを理論と実践の両面から理解することを目標とする。これらの修得を通じて、子ども・保護者とのかかわりにあたっての保育者としての基本姿勢についても考察してほしい。

[2] 授業の計画

第 1 回　オリエンテーション：正常と異常とは
第 2 回　心に関する理論と心理療法①（精神分析理論）
第 3 回　心に関する理論と心理療法①（精神分析療法）
第 4 回　心に関する理論と心理療法②（自己理論）
第 5 回　心に関する理論と心理療法②（来談者中心療法）
第 6 回　心に関する理論と心理療法③（行動理論）
第 7 回　心に関する理論と心理療法③（行動療法）
第 8 回　子どものための心理療法：遊戯療法，絵画療法，箱庭療法
第 9 回　保護者・子ども理解における質問紙調査の意義
第 10 回　質問紙調査の方法論
第 11 回　質問紙の作成・実施時の注意点
第 12 回　質問紙法の実際①
第 13 回　質問紙法の実際②
第 14 回　調査発表・まとめ①
第 15 回　調査発表・まとめ②

[3] 評価の方法

試験期間中に試験を実施する。試験(70%)と調査の実施・発表(30%)により総合的に評価する。(　) 内は、評価にしめる比重を表す。欠席・遅刻・早退、および著しく受講態度が悪い場合は減点する。

[4] 教　　材

必要に応じて資料を配布する。

[5] 参考図書

川瀬正裕・松本真理子・松本英夫『心とかかわる臨床心理』(ナカニシヤ出版 2006)
大石史博・西川隆蔵・中村義之（編)『発達臨床心理学ハンドブック』(ナカニシヤ出版 2005)
改訂・保育士養成講座編纂委員会（編)『精神保健』(全国社会福祉協議会 2009)

保育内容研究ＩＢ（健康Ⅱ）		担当教員	松川恵子（まつかわ けいこ）
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
演習	1 単位	2 年次後期	選択

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

健康Ｉの授業を基礎として、保育の中で健康な心と体を育んでいくための環境構成や援助等について、具体的な学習を取り入れて授業を進める。幼児期における健康教育や運動経験の意義を理解し、体を動かす活動を展開させるための環境構成・援助のあり方、健康な心と体の育ちを支える保育者の役割などを学んでもらいたい。

[2] 授業の計画

第 1 回　保育内容「健康」について（オリエンテーション）
第 2 回　健康教育の意義
第 3 回　子どもの健康と関連した行事（園外保育）
第 4 回　子どものからだとこころの育ち①0 歳～2 歳
第 5 回　〃　②3 歳～5 歳
第 6 回　保育所保育指針における領域「健康」①（ねらい）
第 7 回　〃　②（内容）
第 8 回　保育所保育指針における「健康及び安全」
第 9 回　幼稚園教育要領における領域「健康」①（ねらい）
第 10 回　〃　②（内容）
第 11 回　〃　③（内容の取扱い）
第 12 回　体を動かす遊びの指導案作成
第 13 回　体を動かす遊びの実践①（3 歳児）
第 14 回　〃　②（4 歳児）
第 15 回　〃　③（5 歳児）

[3] 評価の方法

試験期間中の試験は実施しない。
遊びの実践　50 点
レポート・指導案　50 点
欠席、遅刻、早退及び授業進行の妨げになる行為（私語、携帯電話など）については減点する。

[4] 教　　材

厚生労働省『保育所保育指針解説書』（フレーベル館 2008）
文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館 2008）

[5] 参考図書

特になし。

保育内容研究 VC（表現Ⅲ）		担当教員	伊東知之（いとう ともゆき）
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
演習	1 単位	2 年次前期	選択

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

絵を描いたり、何かをつくったりして表現することは、人にしかできません。ではなぜ人は何かを表現するのだろうか。この授業では、様々な造形の表現方法や技法を学びながら実際に絵を描いたり、工作することによって自らの造形表現力を養うと共に幼児を中心とした造形表現の意味について探究していきます。

[2] 授業の計画

第 1 回　造形表現について
第 2 回　幼児の造形活動について
第 3 回　ブルーノ・ムナーリの造形遊び
第 4 回　絵画演習　絵の具を使って
第 5 回　絵画演習　合わせて描く
第 6 回　デザイン演習　構成
第 7 回　デザイン演習　しましまテープ
第 8 回　工作演習　飛ばして遊ぼう①
第 9 回　工作演習　飛ばして遊ぼう②
第 10 回　版画演習　フロッタージュ
第 11 回　版画演習　スチレンスタンプ
第 12 回　工作演習　飛び出すカード
第 13 回　工作演習　走らせて遊ぼう
第 14 回　工作演習　回して遊ぼう
第 15 回　まとめ

[3] 評価の方法

試験期間中の試験は実施しない。
実技が中心となるため、作品等の提出物で評価する。
欠席、遅刻、早退及び授業の妨げになる行為（私語、携帯電話など）は減点する。

[4] 教　　材

必要に応じて資料・プリントを配布する。

[5] 参考図書

野村知子、中谷孝子編『幼児の造形』（保育出版社）
厚生労働省『保育所保育指針解説書』（フレーベル館）
文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）

[6] そ の 他

作品等の提出期限後の受付はしません。

教育職の研究		担当教員	増田　翼（ます だ つばさ）
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
講義	2単位	2年次前期	選択

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

本講義の目的は、受講生に教育職についての理解を深めてもらうことによって、現代の保育者に求められる資質能力の基礎を育成することである。具体的な内容としては、教育職の意義や保育者の仕事の流れ、保護者とのかかわり方、シナリオ型指導案の作り方、保育者の職務内容、保育者の職場と男性保育者、労働条件と身分保障、保育の反省と評価、保育カンファレンスと研修等について学ぶ予定である。受講生が自らの将来の仕事として教育職を選びたいかどうか、自ら考え、判断するための材料と機会を提供したい。

[2] 授業の計画

第 1回　オリエンテーション
第 2回　教育職の意義：子どもにとって保育者とは、保育者のふるまいと責任
第 3回　保育者の一日の仕事の流れ
第 4回　保護者と向き合う保育者（1）登・降園時の保護者とのかかわり
第 5回　保護者と向き合う保育者（2）園だより・クラスだよりと連絡帳
第 6回　保護者と向き合う保育者（3）クレーム処理から学ぶ
第 7回　シナリオ型指導案の作り方
第 8回　保育者の職務内容（1）出席簿・園日誌・個人記録簿の作成
第 9回　保育者の職務内容（2）カリキュラムの作成と園務の分掌
第10回　保育者の職務内容（3）地域との関係づくり・危機管理と安全確保
第11回　保育者の職場文化（1）職場の多様性と男性保育者
第12回　保育者の職場文化（2）就労時間と仕事のめりはり・保育者の身分保障
第13回　保育者の職場文化（3）魅力ある職場づくり
第14回　保育の反省と評価・保育カンファレンスと研修
第15回　まとめ

[3] 評価の方法

試験は行わず、ノート等の提出物（50%）とレポート（50%）で評価する。
欠席、遅刻、早退および授業進行の妨げになる行為は減点とする。

[4] 教　　材

田中亨胤・尾島 重明・佐藤和順編著『保育者の職能論』（ミネルヴァ書房 2006）
その他、適宜プリント資料を配布する。

[5] 参考図書

中田カヨ子・岡本富朗・相馬和子編『新訂 保育者となるために』（萌文書林 2000）
米谷美和子・福田勝恵『キラっと光る保育者のマナー―現場での心がまえ・緊急対応・常識マナーも身につく！―』（ひかりのくに 2005）
柴田愛子『保護者とのつきあい方50のコツ！』（学陽書房 2007）
菊池政隆『まあせんせい！』（ポプラ社 2005）　その他、講義中に適宜紹介する。

[6] その他

私語をする学生に対しては、とりわけ厳しく指導し減点する。また、初回に座席を指定する。

乳児保育Ⅱ		担当教員	鷲田　美恵子（わしだ　みえこ）
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
演習	2単位	2年次後期	選択

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

乳児期とは発達の連続である。この発達を学ぶ過程でこの時期が生涯を支えるあらゆる発達の基礎を築く大切な時期である。個人差に応じて保育ができるよう乳児保育の概念と意義を学び成長過程の特性を理解する。また、育児支援の観点から必要なニーズを把握して応えていく環境づくりを考えていく。保育所保育指針に添い、3 歳未満児の保育計画立案やその進め方、家庭・地域との連携、子どものための援助のし方について具体的に伝えていく。目標としては、乳児保育の意義をしっかり心で受けとめ、主体的に活動できる力を乳児とふれあう機会を多くもち、育つ生命に感動する心を持ちながら、学生が自ら身につけていくことをねらいとしたい。（可能なら乳児保育所見学を予定している）

[2] 授業の計画

第 1回　講義概要と授業計画について（グループワーキング実施）
第 2回　乳児保育の基本
第 3回　6ケ月未満児の発達と保育内容
第 4回　6ケ月から1歳3ケ月未満児の発達と保育内容
第 5回　1歳3ケ月から2歳未満児の発達と保育内容
第 6回　2歳から3歳未満児の発達と保育内容
第 7回　乳児への関わり方とその実践（反省とまとめ）
第 8回　乳児の遊びと環境づくり（空間づくり）
第 9回　遊びで育つもの（手作りおもちゃ作り）
第10回　保育の計画作成の意義とポイント
第11回　乳児保育のねらいと内容
第12回　記録のかき方と評価反省の意味
第13回　乳児保育の援助のし方
第14回　家庭との連携・地域とのネットワークづくり
第15回　保育所保育の実際と保育観（まとめ）

[3] 評価の方法

試験期間中に試験は実施しない。
課題レポートおよび小テスト(50%)
授業内の態度・意欲　　(30%)→グループワーク・ディスカション授業にて
授業内の実技・発表　　(20%)
欠席・ 遅刻・早退は減点する。

[4] 教　　材

増田まゆみ編著『乳児保育』（北大路書房）
今井和子著『0・1・2歳児の心の育ちと保育』（小学館）

[5] 参考図書

厚生労働省編『保育所保育指針解説書』
吉本和子編著『乳児保育』(エイデル研究所)

障害児保育		担当教員	青井夕貴（あおいゆうき）
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
演習	1単位	2年次前期又は後期	選択

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

障害の有無に関わらず、広い視野から保育・援助を実施するためには、基礎となる知識やスキル、さらに自分なりの障害観・保育観が不可欠であると考える。本授業では、子どもにかかわる心身の障害について基本的知識を身につけると共に、障害への理解や捉え方について考える作業を行いたい。その上で、障害児および保護者への個別援助の過程やあり方、施設内での支援、地域および外部の専門機関との連携などについて学び、障害児保育について柔軟な理解を深めたい。

[2] 授業の計画

第 1回　オリエンテーション～授業の目的と計画、障害児保育を支える理念
第 2回　障害児を取り巻く環境の現状と課題
第 3回　障害の理解と援助～知的障害
第 4回　障害の理解と援助～発達障害Ⅰ
第 5回　障害の理解と援助～発達障害Ⅱ
第 6回　障害の理解と援助～情緒障害
第 7回　障害の理解と援助～視覚・聴覚障害
第 8回　障害の理解と援助～言語・運動障害
第 9回　障害の理解と援助～その他
第10回　保育所・幼稚園における援助Ⅰ
第11回　保育所・幼稚園における援助Ⅱ
第12回　施設における援助
第13回　家庭での育ちと家族への援助
第14回　地域との連携と援助
第15回　まとめ

[3] 評価の方法

試験期間中に試験を実施する。
提出課題40%、試験30%、受講態度等30%をもとに、総合評価する。
欠席や遅刻、早退は減点の対象とする。

[4] 教　　材

尾崎康子，小林真，水内豊和，阿部美穂子編『やわらかアカデミズム・わかるシリーズ　よくわかる障害児保育』（ミネルヴァ書房 2010）

[5] 参考図書

必要に応じて授業中に紹介する。

児童文化		担当教員	谷出　千代子（たにで　ちよこ）
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
演習	2 単位	2 年次後期	選択

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

子どもの世界では、大人にはなんでもないことが、新鮮だったり、感動的だったり、あるいは困惑したりするものである。それは、子どもにとっていずれも初めての体験だからであろう。

そこで、保育者自身が具体的な児童文化財を製作して発表したり、他者の実践を鑑賞して、子どもの緊張・感動を擬似体験、理解し、心の財産を蓄積していくことが大切である。

本年度は、ベースに「絵本」を置き、絵本の読み聞かせと分析、そこから連想された文化財を各自が製作、実演などを通して、実践発表と鑑賞を重ねる。

[2] 授業の計画

第 1 回　児童文化財の位置づけ。絵本分析の視点
第 2 回　絵本分析の楽しみ方。発表者グループ分け
第 3 回　絵本分析①　赤ちゃん絵本１
第 4 回　絵本分析②　赤ちゃん絵本２
第 5 回　絵本分析③　赤ちゃん絵本３（絵本で遊ぶ製作）
第 6 回　赤ちゃん絵本の楽しみ　学生のグループ別発表
第 7 回　絵本分析④　くり返し絵本１
第 8 回　絵本分析⑤　くり返し絵本２
第 9 回　絵本分析⑥　くり返し絵本３（絵本で遊ぶ製作・実践）
第 10 回　くり返し絵本の楽しみ　学生のグループ別発表
第 11 回　絵本分析⑦　昔話絵本１
第 12 回　絵本分析⑧　昔話絵本２
第 13 回　絵本分析⑨　昔話絵本３（絵本で遊ぶ製作・実践）
第 14 回　昔話絵本の楽しみ　　学生のグループ別発表
第 15 回　絵本分析⑦　純絵本（絵本で遊ぶ製作・実践）
第 16 回　絵本分析⑧　科学絵本（絵本で遊ぶ製作・実践）
第 17 回　純絵本の楽しみ　　学生のグループ別発表
第 18 回　科学絵本の楽しみ　　学生のグループ別発表
第 19 回　絵本分析⑨　思春期を考える絵本（絵本で遊ぶ製作・実践）
第 20 回　絵本分析⑩　戦争を考える絵本（絵本で遊ぶ製作・実践）
第 21 回　思春期を考える絵本の楽しみ　学生のグループ別発表
第 22 回　戦争を考える絵本の楽しみ　学生のグループ別発表
第 23 回　絵本分析⑪　高齢化社会の絵本１
第 24 回　絵本分析⑫　高齢化社会の絵本２（絵本で遊ぶ製作・実践）
第 25 回　絵本分析⑬　ジェンダーフリーの世界１
第 26 回　絵本分析⑭　ジェンダーフリーの世界２（絵本で遊ぶ製作・実践）
第 27 回　高齢化社会の絵本の楽しみ　学生のグループ別発表
第 28 回　ジェンダーフリーの絵本の楽しみ　学生のグループ別発表、
第 29 回　絵本の選び方、与え方
第 30 回　まとめ

[3] **評価の方法** 試験期間中の時間に、その場で資料を基にレポートを書く。評価の 2.5 割。 授業内のグループ別実践発表の評価で 7.5 割。 欠席、遅刻、早退を減点して評価する。
[4] **教　　材** その都度、製作に関する関係図書、資料を配付する。
[5] **参考図書** その都度紹介する。

養護内容		担当教員	木越直昭（きごしなおあき）
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
演習	1単位	2年次前期又は後期	選択

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

さまざまな事情により、やむなく施設（乳児院・児童養護施設）で生活をしなくてはならない児童に対して行っている養護の実践を理解する。その上に立って、入所児童の心身の成長や発達を保障し、自立支援のための知識、技能を習得する。

[2] 授業の計画

第 1回　乳児院の現状と課題
第 2回　児童養護施設の現状と課題
第 3回　施設運営と管理
第 4回　基本的な日常生活の援助
第 5回　母子家庭の実態とその支援
第 6回　被虐待児の保護と家庭支援について
第 7回　被虐待児への対応と援助
第 8回　ボーダーライン上の児童への対応と援助
第 9回　地域へのかかわりと役割
第10回　家庭復帰及び里親委託に向けての支援
第11回　自立に向けての支援及びアフターケア
第12回　パーマネンシーの保障と課題
第13回　子どもの最善の利益とは
第14回　権利擁護ノートの作成
第15回　援助者としての倫理と資質、専門技術

[3] 評価の方法

試験期間中の試験は実施しない。
レポート（個人・提出）と授業への積極的参加(欠席、遅刻、早退及び授業の妨げになる行為は減点の対象とする）で評価する。

[4] 教　　材

テキストは使用しない

[5] 参考図書

『乳児院養育指針』(全国乳児福祉協議会)
『児童養護施設ハンドブック』(全国児童養護施設協議会)
『子どもの権利を擁護するために－児童福祉施設で子どもとかかわるあなたへ－』(財団法人日本児童福祉協会 2002.5)

保育・教職実践演習（幼稚園）		担当教員	乙部（おとべ） 貴幸（たかゆき）・西尾（にしお） 章（あきら） 増田（ますだ） 翼（つばさ）・松川（まつかわ） 恵子（けいこ）
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
演習	2 単位	2 年次後期	選択

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

これまでの学修の振り返りを行い、資質能力の自己評価と自己の課題の整理をするとともに、以下の四つの事項について、保育士および教育職員に必要な知識技能を修得していることを確認する。①使命感や責任感、教育的愛情等、②社会性や対人関係能力、③子どもの理解とクラス経営力、④教科・保育内容等の指導力。授業全体を通じてポートフォリオを作成することで、自己の学修の成果と課題を絶えず自覚し、主体的に資質能力の向上に努めること。

[2] 授業の計画

本授業は６部構成、15 週とする。第２部～第５部では全受講生を４班に分割し、班ごとに受講順が異なる。班ごとの受講順は以下の通りである。

第1班	第1部	第2部	第3部	第4部	第5部	第6部
第2班	第1部	第3部	第4部	第5部	第2部	第6部
第3班	第1部	第4部	第5部	第2部	第3部	第6部
第4班	第1部	第5部	第2部	第3部	第4部	第6部

以下の授業構成は第１班の例である。

第１部（第１週）
第１週　第１回　オリエンテーション
　　第２回　これまでの学修の振り返り

第２部（第２週～第４週、増田担当）
第２週　第３回　KJ 法による「理想の保育者」の探求（１）
　　第４回　KJ 法による「理想の保育者」の探求（２）
第３週　第５回　心に残る場面の事例研究とロールプレイ（１）
　　第６回　心に残る場面の事例研究とロールプレイ（２）
第４週　第７回　保育場面の動画映像（１）
　　第８回　保育場面の動画映像（２）

第３部（第５週～第７週、乙部担当）
第５週　第９回　　文書によるコミュニケーション
　　第１０回　報告書の書き方
第６週　第１１回　挨拶、言葉遣いの場面に応じた使い分け
　　第１２回　保育場面の１０分創作劇の企画
第７週　第１３回　保育場面の１０分創作劇の発表
　　第１４回　幼稚園・保育所の全体の運営と自己の役割の認識

第４部（第８週～第１０週、西尾担当）

第８週　　第１５回　３歳児の探索行動と絵画表現力の育ち
　　第１６回　３歳児の探索行動と絵画表現力の育ち（グループ討論と発表）

第９週　　第１７回　幼児の絵の発達と表現型
　　第１８回　幼児の絵の指導の実践

第１０週　第１９回　幼児の絵の見方と対応
　　第２０回　幼児の絵の見方と対応（グループ討論と発表）

第５部（第１１週～第１３週、松川担当）

第１１週　第２１回　指導計画作成方法の確認及び対象年齢毎のグループ分け
　　第２２回　各年齢の子どもの姿、年齢や季節に応じた指導計画作成

第１２週　第２３回　指導計画の再検討（松川担当）
　　第２４回　模擬保育のための環境の構成、準備等

第１３週　第２５回　模擬保育（１）１グループ～３グループの発表
　　第２６回　模擬保育（２）４・５グループの発表、学生相互の評価

第６部（第１４週～第１５週）

第１４週　第２７回　和音による弾き歌い
　　第２８回　障がいをもつ子どもと音で遊ぶ

第１５週　第２９回　地域・他機関との連携の実際
　　第３０回　保幼小連携で必要なこと

なお、第６部においても、グループ毎に異なる順番で第２７回～３０回をローテーションする。その他の詳細については第１回の授業（B405 にて実施）で連絡する。

[3] 評価の方法

試験期間中の試験は実施しない。授業における発表内容（50%）と提出するポートフォリオ（50%）により総合的に評価する。（　）内は評価における比重である。欠席・遅刻・早退、および受講態度が著しく悪い場合は減点する。

[4] 教　　材

米谷美和子・福田勝恵・神長美津子『キラッと光る保育者のマナー』（ひかりのくに 2005）（第３部で使用）

その他、担当教員から指示や配付物があるので注意すること。

教育実習Ⅰ		担当教員	松川恵子（まつかわけいこ）
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
実習	4単位	1年次通年、2年次前期	選択

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

各授業において学んだ理論と技術に基づいて、直接幼児に接し、保育を具体的に体験することによって、将来教職についた場合の教育技術の習得と幼児教育者としての資質の向上をはかる。

実際に幼児とふれ合い、保育を体験する中で、一人一人の幼児の姿を理解すること、幼児理解に基づいた環境構成、援助の仕方などを学んで欲しい。

[2] 授業の計画

1. 1年次9月を中心として1週間（学科が割り振りした時期）、仁愛女子短期大学附属幼稚園で実習をする。（見学・観察実習）
2. 2年次6月に3週間、出身地等の幼稚園（各自が交渉する）において実習をする。（指導実習）

実習の概要

(1)実習園でのオリエンテーション

園の運営機構、教育方針、指導計画、事務分掌、事前に研究しておく教材、周囲の環境及び設備等、教育の場としての園全体の活動についての広い理解をもつ。

(2)見学・観察実習

見学・観察実習を通じて幼児の心身の発達段階と特性を観察し、知的・身体的・情緒的・社会的実態の大略を把握し、幼稚園教育、幼稚園の指導法等について全体的に理解し把握する。

(3)指導実習

(1)、(2)において習得したものを総合して指導実習を行う。

教師の役割について意識しながら行動したり、指導案を作成して保育を行い、反省・評価するという体験をしたりして、教師の役割を理解し自覚を強くする。

[3] 評価の方法

試験期間中の試験は実施しない。

1. 実習園からの評価表及び実習ノートを基に総合して評価する。
2. 教育実習Ⅰ・Ⅱはセットとして評価を行う。故に合計5単位認定かゼロのどちらかである。

[4] その他

１．教育実習Ⅰは幼稚園教諭二種免許状を取得する学生のみ受講できる。

２．1年次の履修科目のうち、5科目以上が単位不認定となった場合は、2年次における学外での教育実習は履修できない。

３．1年次の仁愛女子短期大学附属幼稚園での実習評価表を基に実習委員会での検討を行い、2年次の学外実習を行うことができない場合がある。

教育実習Ⅱ		担当教員	松川恵子（まつかわけいこ）
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
実習	1単位	1・2年次通年	選択

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

教育実習がより良い効果をあげ有意義なものとなるように、事前に実習の基礎的事項を把握しておくことが大切なこととなる。そのため、実習内容・方法などを取り上げ事前指導を行う。また、実習後において実習での反省会などの事後指導を行い、実習で学んだこと等を振り返らせることにより、将来に役立たせたい。

事前指導を通して、教育実習への意欲や見通しをもち、事後指導を通して、幼稚園教育や教師の役割についての理解を深めて欲しい。

[2] 授業の計画

第 1回　教育実習オリエンテーション（全体計画）
第 2回　実技講習①（手遊び）
第 3回　実技講習②（折り紙遊び）
第 4回　実習の心得（マナー等）
第 5回　清掃体験（仁愛女子短期大学附属幼稚園）
第 6回　実習要項・実習ノート等について
第 7回　附属幼稚園実習　事前指導
第 8回　附属幼稚園実習　事後指導
第 9回　幼稚園（指導）実習　事前指導
第10回　指導案について
第11回　実習日誌について
第12回　実技講習③（わらべうた遊び）
第13回　教育実習ノートについて
第14回　幼稚園（指導）実習　事後指導
第15回　教育実習報告会

[3] 評価の方法

試験期間中の試験は実施しない。

1. 授業への出席及びレポート提出により行う。
2. 教育実習Ⅰ・Ⅱはセットとして評価を行う。故に合計5単位認定かゼロのどちらかである。

[4] 教　　材

開　仁志 編著『これで安心！保育指導案の書き方』（北大路書房 2009）

[5] その他

教育実習Ⅱは幼稚園教諭二種免許状を取得する学生のみ受講できる。

保育実習Ⅰ		担当教員	松川恵子（まつかわけいこ）・青井夕貴（あおいゆうき）
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
実習	5 単位	1・2 年次通年	選択

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
2. 観察や子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を深める。
3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。
4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

[2] 授業の計画

1. 1 年次 2 月下旬から 3 月上旬に 90 時間（12 日間）以上、出身地等の保育所にて実習（見学・観察実習）を行う。＜保育所実習＞
2. 2 年次 8 月～9 月に、各自 90 時間（12 日間、学科が割り振りした時期）以上、入所施設において実習を行う。＜施設実習＞

＜保育所実習の内容＞

1. 保育所の役割と機能
   (1) 保育所の生活と一日の流れ
   (2) 保育所保育指針の理解と保育の展開
2. 子ども理解
   (1) 子どもの観察とその記録による理解
   (2) 子どもの発達過程の理解
   (3) 子どもへの援助や関わり
3. 保育内容・保育環境
   (1) 保育の計画に基づく保育内容
   (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容
   (3) 子どもの生活や遊びと保育環境
   (4) 子どもの健康と安全
4. 保育の計画、観察、記録
   (1) 保育課程と指導計画の理解と活用
   (2) 記録に基づく省察・自己評価
5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理
   (1) 保育士の業務内容
   (2) 職員間の役割分担や連携
   (3) 保育士の役割と職業倫理

＜施設実習の内容＞

1. 施設の役割と機能
   (1) 施設の生活と一日の流れ
   (2) 施設の役割と機能
2. 子ども（利用者）理解
   (1) 子ども（利用者）の観察とその記録
   (2) 個々の状態に応じた援助や関わり
3. 養護内容・生活環境
   (1) 計画に基づく活動や援助
   (2) 子どもの心身の状態に応じた対応
   (3) 子どもの活動と生活の環境
   (4) 健康管理、安全対策の理解
4. 計画と記録
   (1) 支援計画の理解と活用
   (2) 記録に基づく省察・自己評価
5. 専門職としての保育士の役割と倫理
   (1) 保育士の業務内容
   (2) 職員間の役割分担や連携
   (3) 保育士の役割と職業倫理

[3] 評価の方法

試験期間中の試験は実施しない。

実習先からの評価表、実習ノート等により、総合的に評価する。

[4] 教　　材

阿部和子・増田まゆみ・小櫃智子編『最新保育講座　保育実習』（ミネルヴァ書房 2009）

[5] その他

①保育実習Ⅰは保育士資格を取得する学生のみ受講できる。

②1 年次の全履修科目のうち、5 科目以上が単位不認定（Ｅまたは再試験でＤ）となった場合は、2 年次における学外での実習は履修できない。

③1 年次の仁愛女子短期大学附属幼稚園での実習評価表を基に実習委員会で検討を行い、1･2 年次の学外実習を行うことができない場合がある。

保育実習Ⅱ		担当教員	松川恵子（まつかわけいこ）他
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
実習	2単位	2年次通年	選択

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

保育実習Ⅰから学んだことを自らの保育観の確立の基礎とし、将来の保育士としての自覚を得たり、さらに新しい学習目標を見出したりする契機とする。

実際に幼児とふれ合い、保育士として行動する中で、成長した幼児の姿を感じ取ったり、一人一人の幼児への適切なかかわり方について考えたりする姿勢を身に付けて欲しい。

[2] 授業の計画

保育実習Ⅱは、2年次8月～9月に10日間保育所で実習（指導実習）を行う。実習園は、保育実習Ⅰ（見学・観察実習）を実施した園である。

実習のおもな内容は以下のとおりである。

＜見学・観察実習＞

1. 実習園の1日の流れの全体的理解。
2. 実習園の人的・物的環境の理解。
3. 乳幼児の遊びや生活の姿の理解。
4. 保育士の職場内容と役割の全体的理解。

＜指導実習＞

前段階での基本的項目の理解を含めて、短期間継続して、乳幼児との生活をともに体験することにより、より具体的に理解する。

1. 実習園における1日の生活内容、活動、休息など、生活のリズム・流れの体得。
2. 養護面における保育士の配慮を具体的に習得。
3. 乳幼児の安全及び疾病防止などに対する配慮と臨機応変的処理の習得。
4. 各年齢や発達段階における乳幼児の遊びや生活の姿の違いの理解。
5. 保育士の職務内容、チームワーク、勤務体制などの体験的理解。
6. 家庭や地域社会との関係の実践的理解。

[3] 評価の方法

試験期間中の試験は実施しない。

実習先からの評価表を重視し、実習ノートを加えて総合評価を行う。

[4] 教　　材

阿部和子・増田まゆみ・小櫃智子 編『最新保育講座　保育実習』（ミネルヴァ書房 2009）

[5] その他

①保育士資格を取得する学生のみ受講できる。

②「保育実習Ⅰ」を受講していない者及び中途放棄した者は受講できない。

保育実習Ⅲ		担当教員	松川恵子（まつかわけいこ）他
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
実習	2 単位	2 年次通年	選択

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

保育実習Ⅰから学んだことを踏まえ、施設保育士としての「専門知識」、「専門技術」、「関連知識」についてさらに学びを深めていく。

職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚に基づいた行動ができるようになって欲しい。

[2] 授業の計画

保育実習Ⅲは 2 年次 8 月に各自 10 日間、児童福祉施設（保育所は除く）その他社会福祉関係諸法令の規定に基づき設置されている施設で実習を行う。

実習のおもな内容は以下のとおりである。

・施設での 1 日の流れの全体的理解
・施設での人的・物的環境の理解
・対象者の生活する姿の理解
・保育士としての職場内容と役割の全体的理解
・施設内のチームワーク、勤務体制などの理解
・施設と地域社会との関係の理解
・個別支援計画の作成と実践
・子ども（利用者）の家族の支援と対応

[3] 評価の方法

試験期間中の試験は実施しない。

実習先からの評価表を重視し、実習ノートを加えて総合評価を行う。

[4] 教　　材

阿部和子・増田まゆみ・小櫃智子 編『最新保育講座　保育実習』（ミネルヴァ書房 2009）

[5] その他

保育士資格を取得する学生のみ受講できる。

「保育実習Ⅰ」を受講していない者及び中途放棄した者は受講できない。

卒業研究		担当教員	平岡芳美他（ひらおかよしみ）
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
演習	2単位	2年次通年	必修

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

卒業研究の目的は、「乳幼児の教育・保育に関する課題について自由研究することにより、幼児教育の専門的知識･技術をより深めることである。さらに、この卒業研究を通して、課題・テーマの発見、情報収集・研究方法、論文の文章表現法、プレゼンテーションの仕方等を学習する。

[2] 授業の計画

①卒業研究中間発表会（2010年11月10日）
2回生は発表し、1回生は聴講してレポートを提出する
②第1回卒業研究オリエンテーション（2010年12月8日）
1回生は卒業研究要項および各教員が担当する卒業研究の内容・進め方等の説明を聞く。
③2回生が行う卒業研究発表の聴講（2011年2月10日）
2回生は発表し、1回生は聴講してレポートを提出する
④第2回卒業研究オリエンテーション（2011年4月1日）
2回生は卒業研究を担当する指導教員を決定する。
⑤卒業研究の受講登録（2011年4月7～13日）
⑥テーマとグループの決定（2011年5月18までに）
⑦個別指導（2011年4月～2012年2月）
学生と指導教員が相談して日時を決め、卒業研究ゼミを行う。
⑧卒業研究中間発表会（2011年11月9日）
2回生は発表し、1回生は聴講してレポートを提出する。
⑨卒業研究成果および要旨の提出（2012年1月20日）
2 回生は指導教員に卒業研究成果（卒業研究論文あるいは作品・レポート）と卒業研究要旨を提出する。
⑩卒業研究発表会（2012年2月10日）
2回生は発表し、1回生は聴講してレポートを提出する。

[3] 評価の方法

卒業研究成果（論文・レポート・作品）、卒業研究要旨、2回の発表および研究に取り組む姿勢・態度などを総合的に評価する。

[4] 教　　材

担当の指導教員が指示する。

[5] 参考図書

担当の指導教員が指示する。

[6] そ の 他

・卒業研究についての詳細な要項は、第1回卒業研究オリエンテーション（1年次12月下旬）に発表する。
・1回生には2回の発表会への出席とレポートの提出を課している。